

A君の日記

「ちよっといいかな」が明らかにする社会の深層

読み人知らず

運国際印刷

4989

この物語はフィクションであり、実在するいかなる
人物、団体名とも関係ない

はじめに

「600回記念」

このシリーズも早い物600回、でもう3年になる。
始めた当初ネタも無く3か月くらいで終わりする予定で、
てきとーに書き始めた。こうして回数を数えてみると思っ
たより長く続いていることに驚いている。
そんなわけで600回を記念して何か企画を考えてみたが
なかなか思い浮かばない。たまには何かのパロディーを作
ってみてはどうかと思い、昔の文をつなげてみることにし
た。

A君の日記

～「ちょっといいかな」が明らかにする社会の深層～

〇〇出版 No4989

まえがき

これはただの日記です

いろいろなことがここに書いてある。

楽しいこと、悲しいこと、不思議に思えること

そして戯言など。

このなかのどれか1つか2つは

みなさんか今感じていることかもしれません

そのほかの事柄はそうではないかもしれません

せめてもう1つか2つは心の中に残り

やがて、これらのことがいつしか笑い話しになる

これはそんなふうな

ただの日記なのです

それはこんな一言から始まった。

「A君！ちょっといいかな？」

そう、この耳慣れた言葉から全てのドラマが始まる。
一見都合のよさそうなこの言葉、その言葉の裏に実は奥深い闇が見え隠れしているのである。

時は1987年、日本国有鉄道が消滅し、JRになった年
「ちょいと3日のつもりで出張、いつの間にやら3週間...
気が付きゃ梅田の5階で徹夜...」といった伝説的な出来事が起こった年である。そしてこの日記が生まれた記念すべき？年でもあった。

世にはMacintosh SEなるコンピュータやUNIXワークステーションが普及し始め新しい時代の幕開けという言葉が似合う頃であった。そんな時「FORTRAN出来る人手をあげなさい」といった手法で人を集め...以下略
大型汎用機の世界は闇に包まれていることを実感した年で

もあった。

今から思えば汎用機の中でも特殊な環境であったことやプロジェクト管理の方法、人月の神話どおり後の工程で人数を増やしても混乱が増し結果はあまりかわらないという神話を実践してしまっていた。

この頃の汎用機は手厚い？メーカーサポートや大きく特殊な周辺機器過去のソフトウェアライブラリなどで技術系の計算是まだ主流であった。その一方でプログラミング環境に代表される開発環境、グラフィックスに関してはUNIX ワークステーションに魅力を感じ始めた時期であった。当時流行？していた竹内まりやの「元気を出して」という歌を聞きながら通っていたことを思い出す。

時は流れ 1988 年頃

この時は伝説の3分間出張という出来事があった。

いつものように「A君ちょっといいかな」「大阪まで出かけてくれないか」細かなことは忘れたがちょっとした騒ぎの

中で大阪まで出かけていったが3分くらいで解決したという出来事であった。状況を良く確認（ヒアリング）して注意深く分析すればもっと簡単に解決できた出来事であった。（行かなくてもよかったかも）

さらに時は流れ 1989 年頃

USA への出張があった。メーカーの代理店の人と COMDEX 視察というツアーに参加した。後半シアトルでの Microsoft 訪問ではちょっとしたカルチャーショックを受けた。ここれ日本と USA の会社の違いも知ることになる。まだ Intel も非力な CPU しかなく当時は主流になると思わなかった。現地では少し前に起きたサンフランシスコ地震の影響が海岸沿いに残っていたことを思い出した。液状化現象を始めて見たのはフィッシャーマンズワープであった。

この頃かどうかはわからないがビル移転という出来事もあった、その時もモデムを持って早朝に新ビルに出かけてはみたものの、誰もいない事務所に一人佇んでいたこと

を思い出した。誰かが「ちょっといいかな」という言葉の後新しいビルに5:00PMに集合と言ったような記憶がある。

アポイントの時間はきちんと確認しなければならない。ビル移転時も他にいろいろドラマがあったようであるが記憶に残っていないので省略する。

太陽は昇り SAS ビルを照らすでしょう...

そんな歌が流行していた時期。

その後

ネットワーク委員会と呼ばれるマイナーな組織が設立され、Y嬢を始めN氏などと共に勉強会と称して電総研を見学したり南房総のフラワーライン付近を走ったり、仙台や松島に出かけたことを思い出す。今でも電総研のビルの色やフラワーラインがフラワードットだったことは良く覚えている。しかし電総研で何を聞いたはほとんど記憶にない。大事な事はきちんと記録に残さなければならないということを手伝った出来事であった。

当時最先端だった UNIX ワークステーションにも時代の流れの影響を受け CISC から RISC へと変貌することになる。オブジェクトに互換性がなくファイルサイズも大きくなるので新機種の IDSK 容量は 2 倍になっても結局 DISK 容量不足は同じである。さらに長い時が流れ時代は 21 世紀に突入する。

時は 2015 年、映画 ‘back to the future’ から 30 年後の未来である。空にはデロリアンではなくドローンが飛び、アンティークショップやハードオフに MacSE30 の姿はない。天気も不安定で突然のヒョウや突風が多くなってきている。

今、オリンピックを前に近未来の都市に変貌しようとしている東京、そんな街を見してみようと思った A 君、カレンダーをめくりながら東京行きを考えていた…。

リオデジャネイロオリンピック前夜の東京、ちょっと浮いていたようにも感じる。

そして 2016 年、ソニービルがオープンして 50 年、4 年

後のオリンピックに向け東京の再開発も最終段階に入ろうとしている。この年は サンダーバード放送、 ビートルズ来日など第2の黒船に匹敵するようなインパクトのある年であった。それから50年、半世紀になろうとしている。そのソニービルも解体されてしまうようである、何か一つの時代が終わったような印象を持つ。

そんなわけで日記という形式の文章が出来た頃の出来事と最近はあまり書かなくなった言い訳らしき文はこれで終わりである。その後は日記の代わりに戯言らしき文章を書くようになった次第である。

あとがき

本にはたいていあとがきという文が付いている。このあとがきという文には決まった作法や書式があるらしい。

その1、この本が出来た経緯、故事来歴、どのような時に書いたかということを書けらしい。〇〇はx x年の△△という雑誌向けに書いたものであるなど、いうふうを書くことが多い。その他経緯に関しては自らの体験などをふまえ、書くことになった理由を書き連ねている。

その2、この本の内容や読みどころなど、感想をみずから述べるらしい。

その3、関係各所への感謝を述べることになっているらしい。たいていは筆が遅い事に関して待ってくれた編集者や執筆で苦勞をかけた家族に対する感謝などである。このようにあとがきは1, 2, 3の書式を連ねて書かれている。ということで、形式ばった作法に従うと、こんな感じになる。

この日記は書きたいとき、思いついた時に書き貯めているので、どんな時にそんな場所で書いたかは不明である。つまりこの部分はあまり書くことはない。日記なので内容の関してとりたてて感想はない。読んでみるとわかることであるが、あくまでも感想には個人差があります。このような感想を書くために読み返してみると文法や文字の間違いを沢山発見するので、書き直したいというものは正直な感想である。

そして、この日記に関しては関係各所と呼ばれるものはない。しかも締め切りが決まっているわけではないため気楽に書いている。したがってこの部分に関しても取り立てて書くことはない。

というわけで600回記念の作品はこんな風にして幕を閉じるのであった。

乱筆乱文をお詫びします。

完

おまけ

これ以降、一部の人たちの間で人気?のあった話と初期の
作品を数点再掲しています。

時は2015年、映画‘back to the future’から30年後の未来である。空にはデロリアンではなくドローンが飛び、アンティークショップやハードオフにMacSE30の姿はない。天気も不安定で突然のヒョウや突風が多くなってきている。この映画に登場する「大画面の薄型テレビ」と「ビデオ通話」メガネ型「コミュニケーションツール」「空中に3D映像を投影」などは一部現実のものになっている。

今、オリンピックを前に近未来の都市に変貌しようとしている東京、そんな街を見してみようと思ったA君、カレンダーをめくりながら東京行きを考えていた…。

というのは絵空事で研修目的の東京出張である。行き先は赤坂見附付近の外資系企業の研修施設。青山通り沿いで豊川稲荷が近くにあると言えばだいたい見当がつく場所である。東京を訪れるたび低気圧も追いかけてくるため、[嵐と

共にやってくる A 君]や[低気はお友達]という噂が流れているようである。そんな汚名は返上しなければならない。時期が悪いだけかもしれないが…

出発当日、高松の天気は雲一つない晴れになった、これは良い傾向である。いつものように高松駅から空港行きのバスに乗る。このバスの始発はホテルクレメント高松である。ここはかつて全日空ホテル高松という名前であった。シティホテルなので何かのイベントが無い限り地元の人あまり行かない場所である。高松駅から空港に向かう途中、栗林公園を過ぎたあたりにかつて丸亀製麺があったが今は珈琲豆屋に変っている。丸亀製麺は東京にもお店があるらしい。他の県人は香川の会社だと思っているが丸亀と名がつくものの香川の会社ではない。(この丸亀製麺は1回も行かないうちに閉店した)

そんなことを考えているうちにバスは空港に到着した。搭乗手続きを終え出発ロビーに向かう。少し時間があつたので土産物屋をのぞいてみる。店頭で母恵夢を見つけた A 君、

何を思ったのか思わず手に取りレジに向かっていた。

雲ひとつない快晴の空の下、A君を乗せた飛行機は東京に向け無事離陸した。今日は何事もなく綺麗な雲海を見ながらの飛行である、ただそんな景色もつかの間であった、積乱雲らしい雨雲が名古屋付近にかかっている。飛行機はそこを避けるように進んでいる。伊豆半島あたりから高度を下げ房総半島に向かっている、東京は曇りらしく窓からは見えるのは雲だけである。前回は似たような状況で着陸をやり直したが今回はそんなこともなく、A君の乗った飛行機は無事羽田空港に着陸したのである。

さあこの先A君を待ち受けているのか何か？

サプライズな予感を残しながら次回につづく

A君の日記 東京編 4

その2

「地下鉄に乗って」

上京の目的は5日間コースの研修を受けるためである。

(日記のネタ探しではない)

月曜日の朝、新橋から銀座線に乗り赤坂見附に向かう。赤坂見附という駅名は40年以上前流行った地下鉄のことを歌った歌詞に出てきた言葉である。他にも四谷、新宿、丸ノ内線などのという言葉があった。赤坂見附という駅があることを覚えたのはこの歌がきっかけである。そんなことを考えているうちに赤坂見附に着いた。

改札を出て地下道を歩くと[ビックドラッグ]という店を見つけた。なんだか危険な香りがする店名である。そうこうしているうちに出口に近づき地上に出る。目指す建物に行くため坂を上がる。赤坂というだけあって坂が多い。

「CLI なひととき」

建物に入って1階の受付で入管証をもらい会場に入ると、
沢山置かれているPCのうち1台だけが電源ONの状態に
なっていた。なんだか嫌な予感がするA君であった。

事情が分からないので適当な場所に座っていたが講師が現
れ”席はここです”と言われて移動することになった。ひ
ょっとして受講者は1人？

ホームページの案内には”規定人数に達しない場合は開
催されません”と書いてあったのに…。

普通は申し込んでも数人だった場合は開催しないと考
える.そして規定人数は2~3人くらいではないかと思ってい
たが、この場合規定人数は1であった。

講習が始まって驚いたのは題材の内容の多さである。5
日でも量が多いと感じる。受講者が1人なので講師はフ
ルスピード、全力で講義内容を話している。なかなかつ
いていくのが大変である。

講師が「さてこれから10分間休憩です」と言うものの、その間も講師は喋っている。きっと語りつくせない何かがあるであろう。そんなわけで毎日時間オーバーになる。ちなみに講習の操作は全てコンソールからキーボード入力で行う。そう、新人が怖がる例の”黒い画面”である。しかも解説代わりにプロジェクタに映るのが `man xxxx` の出力である。もちろん `vi` も使う :-) 今どきマウスを使わない実習なんて…CLI (Command Line Interface) なひと時ではなく CLI 三昧である。

「ここは東京丸の内」

東京に行くに当たっているいろいろメールをしてみたところ、いつものお姉さんたちが素敵な会場を用意してくれているようである。なんと今回1人参加者が増えるとのことである。アポロ改めHPのお姉さんである。そんなキーワードは皆すっかり忘れていたと思ったが案外覚えているも

のである。洋食、中華の流れで今回は和食になった。場所は皇居近くの大きなビルにある UOMAN である。

この日はなるべく早く切り上げようと思っていたが、研修会場では例によって講師が全力で話をしている。夕方少し質問をしたところ講師魂に火が付いてしまったのかさらに話しに力が入ってしまった。

「いやあの、これから丸の内で用事が…」とは言いだせない A 君であった

この日の研修が終わったのが 18:00 であった。あと 30 分しかない。地理不案内なこの身では 30 分で到着するのは難しいため幹事に Mail を入れ駅へ急ぐ。

駅に着いたものの、急いでいたのでよく確かめず券売機にお金を入れた。しかしなんだか様子がおかしい。普通ならホタンが表示されるが何も表示されずカードを要求する画面になっている。どうやらチャージモードになったま

まになっていたようである。しばらく考えたが画面の戻し方がわからないので返金ボタンを押し隣の券売機で再度切符を買うことになったのである。これは遅れた言い訳ではない:-)

地下鉄の券売機も様変わりしていてタッチパネル式になっていることは知っていた。今ではピンク色と水色の2種類ありピンク色の機械は定期券も買えるようになっている。両方ともICカードへのチャージ機能が追加されたためメニューが階層構造になりわかりにくくなっている。初めて使う人はすこし戸惑いそうである。もう切符を買う人は少数派なのか、ちょっと寂しいと思うA君であった。いろいろな関門を通り抜けようやく無事目的の駅に着く。銀座と違い場所はなんとなくわかるので足早に会場を目指す。周りを見回すと皇居近くのビルは皆大きく立派になっている。東京の人は歩くのが速いという印象があったが最近は少し違うようである、たいていの人は前を見てひたすら歩いているが、時々人の渋滞で出くわす。よく見ると渋

滞の先頭にいる人がスマートフォンを操作しながら歩いている。これがいわゆる”歩きスマホ”らしい、急いでいる人にとっては少し迷惑である。

幸い今日の天気は晴れである、前回は雨になったのでいろいろな噂が飛び交っていたが今回はどうだろうか。

店に到着したのは 18:40 分を過ぎていた。店員に案内してもらおうとそこはまたもや個室である。中に入ってびっくり、アポロのお姉さんが 20 年前と変っていない事に驚く A 君であった。高松空港で買ったお土産を出し挨拶も草々に食事会は始まったのである。

A 君を囲む会と名付けられたこの会はいつものように色々な話に花が咲いていた。伝説の人物達：INO 上、KN 田、UE 門、K 山、O 君改め G 君などのキーワードが昔を思いださせる。そんな中、今回のゲストであるアポロのお姉さんに”この会ができたきっかけ”を聞かれたがあまりきちんと答えることはできなかった。同期が 2 人や 3 人？、元ネットワーク委員会？、元同じ部署？いずれにし

ても構成員のつながりが謎な会であることは変わらない。
集まった人達を見て”これっていったい何の集まり？”と
いう疑問が湧いていたと思う。

この会の始まりを簡単に説明すると…

それは1通のメールから始まった。

ある年賀状に書かれた珍しいドメインの E-Mail アドレ
スに…

そしていろいろあって…

長くなるのでまたの機会にしよう:-) (バックナンバーに
書かれている) 話の内容は多岐にわたり、応仁の乱の話か
ら始まりネットワーク委員会ができた経緯、それに伴って
講演してくれた人や岸田さん、村井さん、AppleWatchま
で話題が幅広くなんだかよくわからない会になっている。
やはり Y 嬢は時代の生き証人だなと思う A 君であった。
上京してから今までの研修中の出来事を話すと

「それだめじゃん、1人じゃ寝られないじゃん」

「きっと真面目人なんだよ」

「それはちょっと厳しいな」

という風なありがたい慰めの言葉をもらった。

いつもと違う盛り上がりの中、いろいろな話が出た後なぜかホテルクレメント高松の話題になった

「クレメント宿泊セットツアーはかなり安くお得」

「あのホテルから街中に行くにはかなり歩くかタクシーが必要」

「仕事で使うには不便」

「近くに小豆島行きフェリー乗り場がある」

などマニアックな話題が多く

どうしてみんな高松駅前の事情に詳しいのか、不思議だと思ふ A 君であった。

他にも vi の話や WiFi の話で盛り上がっていた。無線 LAN 経由で net からレシピをダウンロードできる電子レンジやカスタマイズできる家電の話で盛り上がってい

た。そんな時代になっているんだなと思う A 君、でもその機能ホントに必要？

中でも興味深い話はブラックボックス化した物との付き合い方であった。

あるおねえさん？：「WiFi やインターネットなんか無くても大丈夫！ガラケーでも何でも Yahoo 乗り換えは入っているから！！」

Y 嬢：「いやそうじゃなくて…アプリとインターネットはこれこれこうで…。」

という話を聞くといろいろ考えさせられるものがあった。そんな歓談の中いろいろ話をしているうちに知られざるアポロのお姉さんの謎が少しずつ明らかになっていくのであった。

(数学科だったんだ…) (マトリックスと微分方程式) (単位は間違えていない) (2杯目は日本酒ですか…) (AVS がらみ?) (2人揃って数学 girls)

解説するとアポロとはアポロコンピュータという会社が作ったワークステーションで Domain/OS と呼ばれる UNIX Like な OS が動いていた。引退しても昔のことは良く覚えているようでいくつかのキーワードには即反応してくれる。こんな感じでこの業界の人たちが引退して時間が経つと、そのうちコンピュータおじいちゃんになっていくのかなと思う A 君であった。

そしてこの日はもうひとつのサプライズがあった。何やら M 嬢がごそごそ取りだしたのは丸善の袋である。やけに薄いその袋を開けてみるとそこには"シェルスクリプトマガジン" と書かれていた。M 嬢によると、この本は[初めての Excel]と同じコーナーに置かれていたようである。しかも村井純推薦という POP 付きだったらしい。その POP には"今どきこんな奴らがまだいるのか" という内容とのこと。さすがは丸善 あなどれない。

表紙はかわいいのに内容はマニアックということで A 君にぴったりと思ったようで、さすが目の付けどころがスゴイ。実はこの本を探していたのでありがたい出来事であった。なぜかこの後、皆がこの本を手にして記念撮影をして盛り上がっていた。やはり個室にしたのは正解であった。

そんなこんなであつという間に時間が過ぎ、土産の KitKat の袋とシェルスクリプトマガジンを抱え会場後にするのであった。帰り際東京駅に行く途中もそれぞれ昔話に花が咲いていたようである。

そんなこんなで A 君を囲む会？は無事終了したのである。明日は最終日、また何かサプライズがありそうである。

おわりに

この文は過去に一部の人たちの間で話題になってるできごとを書き溜めていたものに加筆修正を加えたものである。

意味不明な部分も多少ありますが登場人物や関係者に聞いてみるのもよいかもしれません。

なお表紙のデザインはインターネット上で見つけたサイトで作成した画像です。

2015年6月7日 初版

